

地域の中の施設として共生に向けた取り組み

当法人は「地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される」ことを理念に掲げ施設づくりを行っており、地域の方が施設を身近に感じることで交流が増えつつある。また、施設が地域の仕組みの中で資源の一つとして活用されることを目指した取り組みとして・自治会の加入・防災協定・地域清掃活動・会議室の開放・救急講習の開催・ボランティア募集等を行い、地域との共生を目指している。

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒683-0825 鳥取県米子市錦海町3-5-15 (きんかい幸朋苑)
TEL: 0859-23-6800 FAX: 0859-23-6583

○法人設立年/昭和61年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計: 96事業
②経営施設・事業【種別毎の数】:
特養…7、老健…3、ケアハウス…5、生活支援ハウス…4、高優賃…2、保育所…5、リハ病院…1、デイサービス…17、訪問介護…4、訪問入浴…2、訪問看護…3、訪問リハ…1、デイケア…4、ショートステイ…10、特定施設…5、福祉用具貸与…1、グループホーム…8、居宅介護支援事業…6、小規模多機能型居宅介護…3、介護予防支援事業…3、知的障害就労支援施設…1、介護予防拠点…1

○法人の理念・経営方針

【理念】

私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、地域に信頼される「こうほうえん」を目指します

【基本方針】

私たちはサービス業のプロとして、正しい情報を伝達し、自分が受けたい保健・医療・福祉サービスの、提供・改善に努めます

○取り組みの法人での位置づけ等

きんかい幸朋苑の重点目標の一つである『自治会と施設がお互いに情報交換、共有する。施設機能と資源の地域展開』の具体的な取り組みとしての位置づけ

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

きんかい幸朋苑

【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム 30名、併設短期入所生活介護 6名

○活動内容

◇活動開始年: 平成18年5月

◇活動の対象者:

地域住民

◇活動の頻度・時間:

活動状況に応じ対応しており頻度・時間は決まっていない

活動実施の背景、実施にいたった理由

きんかい幸朋苑の立地場所は新興住宅地の団地内で、スーパー、医院、理髪店、喫茶店、医療福祉専門学校、同法人の錦海リハビリテーション病院といった社会資源があるが、子育て世代が多く高齢者を支える基盤が薄い地域である。開設前の地元自治会との話し合いの場では、地域内に施設が出来ることを好意的に思っていない方もおられた。地域の方に施設を認知していただくために、開設2日前に完成見学会を開催した。職員総出で地域の皆様をお迎えし施設内を案内し、介護相談、入居相談等を行い、総勢230名近くの来場があった。アンケートにもご協力いただき、地域の方が施設に期待されていることや介護保険制度、介護全般についての疑問もあり、きんかい幸朋苑として地域の中で何に取り組んでいくべきかの方向と課題を得た。

実施内容

(1) 地域の仕組み・資源について

- ・自治会へ加入し回覧板を利用することで施設からのお知らせ、案内、活動報告等を行う媒体として活用する。
- ・回覧版を利用することにより、地域行事の情報を得て参加に繋げる。
- ・地域のサークル活動の場をお借りして「介護保険について・特養とは・認知症とは」の3項目について説明し、話をする機会を得る。
- ・入居者と職員と一緒に地域のスーパーへ買い物（毎日のおやつ、日用品など）に行ったり近所の理容室を利用したりする。

(2) 施設機能の提供について

- ・施設の会議室を開放し、地域の方に利用していただく。小・中・高生へ学習の場として、子供の遊ぶスペースとして、会合や集会などの場として利用されている。
- ・自治会と防災協定を締結し災害時に一時避難場所など施設機能を提供する。

・救急法講習を開催し地域の方にも参加していただく。

・小学生へ体験学習の場を提供する。高齢者・車椅子体験、バリアフリーの学習などを行う。

(3) 地域交流とボランティアについて

・納涼祭や文化祭など施設の行事に、地域の方にも参加いただく。

・行事ボランティアを募集し、施設行事の際に手伝っていただく。

・小学校、保育園との定期的な交流会を開く。

・地域の方にボランティア募集を行い、園芸活動、ピアノ演奏などを行っていただく。

・地域行事（子供神輿、とんどさん、地域一斉清掃など）に入居者、職員も参加する。

活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

施設完成見学会の開催から、職員と地域の方との関わりが始まり、アンケートをとり地域の中で施設としてどのような関わりを持つべきか考えるきっかけになった。初めての地域活動は、地域のサークル活動の場を借りて介護保険制度、介護全般、認知症についての説明会を開いた。後にサークル活動をされている方とは、催し物で健康体操を披露していただき、会合で施設の会議室を利用される等、施設と定期的な交流をもつことができた。

地域との繋がりが1つのサークル活動を通じ行なえるようになったが、地域住民の方と施設との関係をさらに築くために自治会に加入し、毎月の広報誌・施設からのお知らせや活動報告を、回覧板を用いて提供することができた。回覧板は施設からの情報提供ばかりでなく、施設も地域の情報を入手する手段として利用し活用することで、地域の行事に参加できるようになった。

地域との関係で、施設が地域の方を招いて施設の機能を利用してもらうだけでなく、施設が地域の仕組み・資源を使うことも必要であり、地域との相互関係を築くことが大切だと感じた。

今後の課題及び展開

施設からの情報発信により地域の方との関わりを持つことは多いが、地域の方から施設に対しての依頼や利用頻度が少ないように感じる。施設サービスを利用する方のみが施設を使うのではな

く、地域の方が気軽に施設の機能を利用し活用できる関係や仕組みを築いていく必要がある。

施設が地域の資源の1つとして利用され、地域の仕組みに沿ってニーズに応じていくことが大切であり、施設と地域の繋がりだけではなく、入居者・職員と地域の方々といった人との繋がりにしていくことを目指したい。スーパーでの買い物や散歩など地域内で出会った時に気軽に話しかけられる関係を築いていき、地域へ出かけることが日常の一部である様な繋がりが必要である。職員一人一人が地域の中の一員であると意識し施設と施設の共生を目指したい。

主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 29名
(職種等：取り組みに応じて各職種が対応)

